

式辞

四阿山連峰に見守られ、この歴史ある長野吉田高校にも春のやわらかな光が明るくそそぎ、花の便りに心弾む季節となりました。

この、すべてのいのちが輝く春の佳き日に、保護者の皆様のご臨席を賜り、令和四年度長野県長野吉田高等学校の入学式を挙行できますことは、誠に喜ばしく心より御礼を申し上げます。

今般の情勢から、残念ながら、この式場で一緒にお祝いしていただくことはかないませんでしたが、平素、本校の教育振興にご高配を賜わっております関係の皆さまも、心より皆さんの入学を祝福されていることと思いません。

保護者の皆様、本日は、お子様のご入学、誠におめでとうございます。皆様が大切に育んでこられましたお子様が、長野吉田高校での多様な学びを通して、自らの人生を切り拓く力を一層伸長させることができますよう、本校職員、一丸となって努めてまいります。ご家庭におかれましても、何卒、本校の教育活動にご理解とご支援を賜り、お子様の自立と成長のため、お力添えを賜りますようお願い申し上げます。

さて、生徒の皆さん、あらためまして入学おめでとうございます。皆さんは、校門を通り抜けてすぐ正面にあった石碑に気がつかれたでしょうか。それは、川村驥山先生揮毫の「晴耕雨読」の文字を刻んだものです。校歌

にもあるこの言葉は、「晴れた日には田畑を耕し、雨の日は本を読む」という意味です。その意味を更に深めると、晴れたからと言って無駄に遊ぶでもなく、雨だからと言って無駄に休むでもなく、焼まず努力を続ける、という意味でもあるし、体を動かすことと、頭を使う事、両方やりましょう、つまり、「文武両道」という意味でもあるかと思えます。

私も、この文武両道を大いに皆さんに勧めたいと思います。ただし、文武の「武」が意味するのは、体を動かす班活動だけと言うつもりはありません。ある人は文化系の班活動に打ち込むでしょうし、生徒会活動や、ボランティア活動などに打ち込む人もいます。是非、質問と両立させながら、様々な活動にチャレンジをして欲しいと思います。皆さんには、きっとそれができると思います。なぜなら、皆さんには、それを実現している、お手本となる先輩たちがいるからです。また、長野吉田高校は、それができるステージであると思います。なぜなら、皆さんの活動を応援し、導く、熱意のある先生たちがいるからです。皆さんが自分に合った分野で、活躍し、成長できるよう、生徒の皆さんや保護者の皆さんと共に歩んでいきたいと思えます。

結びに、保護者の皆さまに重ねてお祝いを申し上げますとともに、入学生の皆さんの本校での生活が充実したものになることを心より祈念して、式辞といたします。

令和四年四月六日

長野県長野吉田高等学校長

内藤 信一